

THE 茶内小 TIMES

令和4年(2022年)4月11日発行 VOL 1

チーム茶内小学校

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

この度、北海道教育庁オホーツク教育局から本校に、校長として着任した富田直樹（とみたなおき）と申します。今年度、本校がこれまで以上に「子どもが育つ学校」になるよう、学校経営に邁進してまいりますので、よろしく願いいたします。

さて、少し唐突ではありますが、これからの時代の学校に何が求められているのか、保護者と地域の皆さんと確認したいと思っております。

一昨年度、小学校において、昨年度、中学校において、今年度は高等学校において、子どもたちの学びの基準である新学習指導要領が全面実施となり、「教師が教える」ではなく「子どもが学び取る」授業が展開されるなど、まさに今は教育改革の真ただ中です。また、全国で約5,000人の教職員が精神疾患等で休職していたり、全国の公立学校で約2,000人の教職員が不足したりするなど、学校における働き方改革の加速が求められています。さらに、全ての学校に高速通信ネットワークが整備され、全ての子どもたちに端末が配付されるなど、Society5.0（超スマート社会）を生き抜く資質・能力を子どもたち一人一人に育むことが求められています。そして、何より、一向に終息が見通せない新型コロナウイルス感染症への対応による学びの保障やメンタルヘルスケアなど、取り組むべき課題が山積しており、学校は大きく揺らいでいる状況にあると思っております。

困難はたくさんあるものの、私たち教職員は一つ一つの課題を解決し、全ての子どもたちが未来社会の創り手になるために必要な資質・能力を自ら育む「子どもが育つ学校」、「子どもを主語とした学校」、「常に子どもが真ん中にある学校」をつくる必要があります。保護者と地域の皆さんにも、「チーム茶内小学校の一員」として、そんな学校づくりに参画していただきたいと考えています。

チームが機能するためには、①目標の共有、②プロセスの設計、③チーム・ネットワークづくり、の3つの要素が必要です。次頁に示した「令和4年度浜中町立茶内小学校グランドデザイン（学校経営方針）」を御覧ください。本校の学校教育目標は、上段の中央に示された「思いやりのある子・自ら鍛える子・進んで学ぶ子」です。これは、本校が長年をかけて実現していく目標であるため、今年度、特に子どもたち自身に育んでほしい資質・能力として、「重点教育目標」を設定しました。それが3段目に示した「自分のよさに気付き、役に立つ喜びを知り、未来社会で活躍できる子ども」です。この「重点教育目標」を皆さんと共有したいと考えます。そして、今年度の本校の全ての教育活動は、この「重点教育目標」の実現を目指して進めていきます。ただ、何でもかんでもとなれば、実践の効果が薄れてしまうので、「6区分16項目」に焦点化しました。それが中段に示した「これだけは」であり、これが「プロセス」に当たります。これらは私たち教職員が取り組むものですが、保護者や地域の立場であれば、「こんなことができる」、「こんな支援ができる」などの視点を見て、私たちと連携・協働していただくとともに、独自に家庭で「こんなことに取り組む」、地域では「こんなことに挑戦してみたい」など、検討していただくとありがたいです。3つ目の「チーム・ネットワークづくり」は、PTA総会や学校運営協議会等の機会を通して、目標を共有し、その実現に向け連携・協働して各種取組を進めていくことで構築していきたいと考えます。「チーム茶内小学校」に、是非とも参画をお願いいたします。

令和4年度（2022年度）浜中町立茶内小学校グランドデザイン（学校経営方針）

浜中町教育基本理念

〇ふるさと浜中に生き、豊かなまちを拓き創造する人づくり

浜中町教育基本目標

〇豊かな学びを育み、未来に向かって挑戦し続ける人づくり

学校教育目標

- 〇思いやりのある子
- 〇自ら鍛える子
- 〇進んで学ぶ子

日本国憲法 教育基本法
学校教育法 学習指導要領
北海道教育推進計画
釧路管内教育推進の重点

目指す子どもの姿

自分の足で立って、自分の頭で考え、他者と対話し協働できる茶小の子

令和4年度「重点教育目標」

自分のよさに気付き、役に立つ喜びを知り、未来社会で活躍できる子ども

令和4年度「重点教育目標」を実現するために私たちが取り組む「これだけは」

1 授業改善等

- 〇 全教職員が参画し、各種調査等を活用した検証改善サイクルの確立
- 〇 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための日常の授業改善及び家庭学習の推進
- 〇 教職員の力量を高める全体研修及び個人研修（個人テーマ設定）の推進

2 学級経営の充実

- 〇 全学級における心理的安全性（学級目標の共有、認め合い、弱みの開示）の醸成
- 〇 互いが適度に依存し合うこと（自律）を目指した通常学級と特別支援学級の交流
- 〇 学年を超えて互いが尊重し合うことを目指した縦割り活動の推進

3 学校における働き方改革の推進

- 〇 「茶内小アクションプラン」の策定とコアチームによる定期的な業務の見直し
- 〇 働き方改革の趣旨の確認と自分と向き合う時間（子どもと向き合う時間）の確保

4 GIGAスクール構想の実現

- 〇 ICT機器を活用した学校DX（授業改善、業務改善、保護者等との情報の連携・共有）の実現
- 〇 ICT推進教師（仮称）を中心としたICT機器を効果的に活用できる力量を身に付ける研修の実施

5 校種間及び学校・家庭・地域の連携・協働

- 〇 「何のために」を明確にした幼稚園（保育所）、小学校、中学校が連携・協働した取組の推進
- 〇 学校教育目標の実現と学校課題の解決に取り組む地域学校協働活動を中核とした地域とともにある学校づくりの推進
- 〇 学校経営の改善充実を図る戦略的な学校評価の実施

6 子どもたちの安全確保

- 〇 新型コロナウイルス感染症対応を最優先した学びの環境づくり
- 〇 人を思いやったり、いじめに毅然と立ち向かったりする態度を育む道徳教育等の推進
- 〇 いじめや災害等に対する危機意識の醸成を図る各マニュアル等の不断の見直し

学校経営の理念

「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」へ

学校経営の目標
個人と社会の幸福

学校経営の目標を達成するために
自律・尊重・創造

そのベースとなるのが
当事者意識